

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401763		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家 日吉（松ユニット）		
所在地	北海道函館市日吉町3丁目20番25号		
自己評価作成日	平成30年12月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401763-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成31年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念として『自由・笑顔・安心』を掲げており、職員一人ひとりが理念に則り、業務に日々努めております。また住宅街に位置している事から、近隣住民の方々とのコミュニケーションが良く図れております。行事等の開催の際には地域密着にも力を入れ、年間行事を通し、入居者様に季節感・楽しみを持って頂くよう努めております。委員会なども定期的に開催しており、『事故防止対策委員会』、『処遇改善委員会』、『入居判定会議』、『身体拘束適正化委員会』等も立ち上げ、認知症の方への理解や身体拘束・虐待防止についても勉強会を定期的に行い、防止に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に平成18年3月に開設された木造2階建て2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。
一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や近くのドラッグストアでの買い物などで戸外に出かけられるよう支援に努めていると共に中野ダムでの花見など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。
また、事業所主催の夏祭りを開催して地域の人達や子供たち、家族等が参加して交流の機会を設けたり、ボランティアの協力を得て歌謡ショーの開催、町内会の清掃事業への協力など地域の人々との連携や交流に取り組んでいる。

Ⅴ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自由・笑顔・安心』の3つの理念を掲げ、入居者様・ご家族様・地域住民の方々、職員に対し、共有でき覚えやすく、親しみがある理念を実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り、スタッフ会議や日常業務を通じて職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や日吉町会のゴミ拾い活動へ入居者様・職員をはじめ、地域住民の方の参加もあり、交流を図っている。	事業所主催の夏祭りを開催して地域の人達や子供たち、家族等が参加して交流の機会を設けたり、ボランティアの協力を得て歌謡ショーの開催、町内会の清掃事業への協力など地域の人々との連携や交流に取り組んでいる。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設内での勉強会、運営推進会議で議題に取り上げ、ご家族様や地域の方にもできるだけ参加して頂き、理解や支援の方法などを報告している。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催(2ヶ月に1回)し、会議の出席者として、町会の方、包括支援センター、ご家族様など、外部の方々にも参加して頂き、毎回様々な議題(テーマ)をもとに、サービスの向上に活かしている。	2か月毎に運営推進会議を開催して、口腔ケアや事業所の取り組み状況など具体的な事業所の取り組み内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を主に行い、連携を図っている。また市主催する講演や研修会への参加を通じ、協力関係を築いている。	市担当者とは、日常業務を通じて情報交換を行い、指導や助言等を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームとして身体拘束のないケアへの取り組みや研修に力を入れており、スタッフ会議や業務内の申し送りで、都度、話し合いを行っている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を、身体拘束廃止委員会が中心となって内部研修会を開催して正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底については、業務内の申し送りや勉強会、スタッフ会議等でも話し合い、運営推進会議などの議題としても取り上げ、意識付けを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用するまで現在に至っていないが、運営推進の議題として取り上げ、勉強会等でも行い、職員への反映が行えるようにしている。必要性を考慮した上で、支援できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、法人内で『入居判定会議』を開催しており、グループホームでの入居の可否を決め、その上で契約の説明、同意を得た上で締結を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『苦情相談窓口』を設置しており、当ホームに関する意見や苦情を参考にし、それらをスタッフ会議等に反映させ、経営者へ報告し、指示を仰いでいる。	苦情等の第三者機関への申し出先を見易い場所に明示している。また、本人・家族、来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように苦情受付箱を設置し、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より意見を汲み取る機会を定期的に設けている。そこでの希望や要望等を経営者へ相談し、運営に反映、実施している。	スタッフ会議やカンファレンス、日常業務を通じて職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から管理者は職員の勤怠状況、勤務状況を観察・評価を行い、実績を給与として反映している。また、昇給や昇格への判断材料として、面談の実施も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や講演への参加して頂くよう声がけを随時行い、スキルアップを行っている。もし参加できなくても職員全員が内容を把握できるよう資料等を申し送っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム協議会やBブロック会議等を通じ、様々な研修、事例検討、意見交換を議事録に残す事で情報の共有、サービスの質や向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込みの際に、ご本人様・ご家族様に対し、入居する上で少しでも不安や悩みを解消して頂けるよう面談時など力を入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を行う際には、入居に至る経緯やその背景に十分気を配り、出来る限りご家族の要望に添えるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には初期ケアプランを作成し、実践する事でご本人様が何を求め必要とされているかをケアマネージャーを中心にスタッフで共有しながらケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員ひとり一人が理念を常に頭に入れ、『自由、笑顔、安心』を決して損ねないよう、グループホームらしさを介護を通じ、なじみの関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様も入居者様と同じ目線に立って支援する事に努め、ご本人様、ご家族様、職員との関係を共有出来るように、介護計画を通じ関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際に最も重要視している部分であり、環境変化に対する不安、疎遠感を少しでも軽減できるようになじみの人、物の関係に対しても少しでも途切れないよう支援を行っている。	近隣散歩やドラッグストアでの買い物、事業所主催の夏祭りを開催して家族や地域の人々との交流の機会を設けるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員との関わりや入居者様同士の関わりを重視している。入居者様の中にはなじみの方が出来たことで生活の中で活気が出ている。職員が仲介、話題を提供する事で、入居者様同士、孤立がないよう日々支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了が決まる前後にご本人様に必要な支援(他サービスの利用)等を考慮し、ご本人様・ご家族様へフォロー・情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様の思いを受け止めケアプランに反映させており、日々変動する思いや希望等をアセスメント、ケアカンファレンス等により検討する事で常にご本人様本位のケアを行っている。	個々のアセスメントの実施やケアカンファレンスで一人ひとりの生活歴や意向の把握に努め、職員間で情報を共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様・ご家族様から聞き取りを行い、作成したフェイスシートを参考しながらご本人様にとってなじみの環境が継続できるよう職員全体で取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの日々の暮らしや体調、精神面の変化などの現状の把握をする事により、その人がその人らしく、できる限り良い状態で生活できるように職員全体で努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様・主治医・医療連携看護師・職員など参加のもと、サービス担当者会議を実施し、計画作成担当者が介護計画を作成し、定期的にモニタリングを実施する事でより現状に即した介護計画の見直しを行っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意向や要望、医師や看護師からの指導や助言、カンファレンスやサービス担当者会議等で職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った事柄や日々の様子、ケアの内容等をわかりやすく介護記録に記載することで、職員間での情報共有、日々のケアに活かしてケアプランの見直し等に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人の施設が市内にあり、入居者様の状況や新しいニーズに渡り、多方面に対応が出来る。柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の状況に応じて、包括支援センター等の行政機関と連携を取り、必要な支援を行っている。また定期的に運営推進会議を開催し、町会、消防、地域包括支援センターにご参加して頂き、連携を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望のかかりつけ医と常に連携を取り、定期的往診の介助や受診が必要になった際に、ご家族様への報告を行い、依頼があった場合は受診介助を行っている。日々適切な医療が受けられるように支援している。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や訪問看護との連携、通院への支援や日常の健康管理等で適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に設置している『函館ファミリークリニック』より24時間体制で医療面での相談・助言を仰ぐ事が出来る。また毎週火曜日に訪問し、健康管理指導が実施され、入居者様の健康状態の管理・把握が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に協力医療機関として入居者様一人ひとりにかかりつけの病院を持っており、入退院に関してはスムーズに行うことが出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時にも説明、または重度化に至る前にご家族様、主治医、看護師との相談を行い、医療的な治療の必要性や看取り指針での対応など早期に対応出来るよう努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら看取りの指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応、応急処置などに関する講習を受講している職員もあり、それを活かした勉強会も行われ、職員全体が行われている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回(半年に1回)実施しており、日中・夜間想定にて行っている。また、近隣の町会の参加もあり、地域密着にて訓練に取り組んでいる。	緊急時の応急手当の受講や対応方法の講習会を開催しており、昼夜を想定した年2回の避難訓練を地域の協力を得て実施している。	北海道胆振東部地震のブラックアウト(北海道全域停電)を踏まえて緊急時への再対応を検討しているので、その実践に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声がけ・言葉遣いには日々特に気をつけ、入居者様を敬う気持ちを大切にしている。また、記録などの書面でも、プライバシーに配慮した記載を常に心がけている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように身体拘束廃止やプライバシー保護等の研修会開催で職員間の周知に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などご自分の意思などをお伝えできる方については、誰にでも気兼ねなく話せるよう職員が日々働きかけを行っている。意思をお伝えできない方については表情等で汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	理念に掲げてるように自由な姿でいて頂けるように、個々のペースに合わせ共同生活に支障がない程度で、ご希望に沿った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感にあった容姿をして頂く為に、一人ひとり配慮している。また自己決定を大事にして頂けるように、買い物など、個々の好みのものを購入して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は業者で組まれ提供するが、季節に合わせ一人ひとりの嗜好を大切にしながら食事の準備を行っている。出前も利用しており普段と違った食事の提供も行っている。	一人ひとりの力や好みを把握をしながら、盛り付けや後片付け等を職員と一緒にしている。また、水分・食事の摂取量を把握している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分摂取量に合わせて味付けや量の調整、形状(刻み食・トロミなど)の工夫等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがいを行う事で口腔内の洗浄、風邪予防も兼ね毎日行っている。又、毎食後は義歯の方も含め歯磨き行っており清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	羞恥心に配慮した上で気持ちの良い排泄をして頂く為に、常に排尿パターンを意識した声掛け、誘導を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便リズムを把握した上で食事、水分量に配慮し便秘にならないように取り組みを行っている。又、便秘がちな方に関してはかかりつけ病院より下剤等処方して頂き排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	曜日や時間を決めた入浴は行っておらず、一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。又、馴染みの入居者様同士であれば一緒に入浴される事もある。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせた柔軟な個々に沿った入浴支援をしている。また、特殊浴槽が完備され、安心・安全に入浴ができるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床の時間は決めておらず個々の睡眠リズムに合わせてそれぞれ促している。又、昼夜逆転を防止する為に昼寝など取り入れたり、自由時間・レクリエーションなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時や往診時の主治医からの指示、お薬情報等から服薬方法の把握に努めている。又、状況により医師、看護師へ指示を仰ぎ対応を相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や得意分野を活かし残存能力を損ねないよう家事作業の中で活かして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、天候を考慮した上で散歩やドライブ、買い物等外出行っている。受診との兼ね合いもあるが、出来る限り希望に添えるよう支援している。	散歩や近くのドラッグストアでの買い物などで戸外に出かけられるよう支援に努めていると共に中野ダムでの花見など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。	今後は、偏りなく希望通り外出できるよう業務の改善、人員の増加等検討しているので、その実践に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については全て職員で行っている。買い物時レジの前では本人にお金を手渡し実際に払って頂く事もあり買い物をしているという認識を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や御友人との電話のやり取りは日常的に行われており、年末年始は年賀状の送付も行っている。1階には公衆電話も設置してあり外部の方との連絡を取る事が出来るようになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には植物などを置くことで生活感や季節感を味わって頂く。又、ホールには大きなソファを設置する事で誰でも気兼ねなく、くつろげる空間を作っている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には、四季に応じた飾りつけなどが行われ、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、食堂、自室など好きな場所でお話されたりお茶を飲んだり、一人ひとりが好きな場所で過ごせるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みを物(写真や家具等)をいくつか置くことで居心地良く慣れ親しむ事が出来るような居室を作っている。	居室には、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な空間作りに努めており、リハビリなど簡易なものを出来る方にはして頂いている。事故等防止の為、入居者様に合わせた環境作りを行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401763		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家 日吉（柏ユニット）		
所在地	北海道函館市日吉町3丁目20番25号		
自己評価作成日	平成30年12月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401763-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成31年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念として『自由・笑顔・安心』を掲げており、職員一人ひとりが理念に則り、業務に日々努めております。また住宅街に位置している事から、近隣住民の方々とのコミュニケーションが良く図れております。行事等の開催の際には地域密着にも力を入れ、年間行事を通し、入居者様に季節感・楽しみを持って頂くよう努めております。委員会なども定期的に開催しており、『事故防止対策委員会』、『処遇改善委員会』、『入居判定会議』、『身体拘束適正化委員会』等も立ち上げ、認知症の方への理解や身体拘束・虐待防止についても勉強会を定期的に行い、防止に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実践を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由・笑顔・安心」の3つの理念を掲げ、入居者様、御家族、地域住民、職員に対し共有出来る覚えやすい親しみのある理念を実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や防災訓練等、入居者様をはじめ、町内会長、地域住民の方の参加もあり交流を図っている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解を運営推進会議を主としてホームでの勉強会の議題に取り上げ、地域の方々にも参加していただき実践している。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1度(年6回)開催し、会議には町会、包括職員、入居者様御家族など外部の方々にも参加して頂き毎回様々なテーマをもとにサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を主とし連携を図っている。市が主催する研修や講演への参加を通じ協力関係を築いている。又、生活保護の方は市乃ケースワーカーと連絡を密に取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内や事業所内で「身体拘束廃止委員会」を設置し、委員会を中心に施設でも勉強会等を開き、日頃から身体拘束のないケアへの取り組みに力を注いでいる。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会でも虐待については取り上げ防止に努めている。又、施設内でも職員同士お互いに声がけし合いながら、虐待の認識を高めている。運営推進会議等でもテーマとして取り上げ意識付けを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議にて取り上げている。現在は活用するまでに至ってはいないが、今後に備え必要性を考慮した上で勉強会等で取り上げ職員への反映を行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、入居前の面談時にも利用者やご家族の意向をくみ取り、その上で契約の説明を行い、同意を得た上で締結を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情相談窓口」を設置しているが、現時点で苦情は上がっていない。家族会議を開催してご家族の意見を聞く機会を設けている。必要であれば経営者へ報告し指示を仰いでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を定期的(月1回)に開催し、職員より意見を汲み取っている。そこでの希望や意見等を経営者に伝え運営に反映、実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃から職員の勤怠状況、勤務状況等に目を配り、実績を給与に反映している。又処遇改善Ⅰを申請しキャリアアップを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修や講演への参加と、研修の意義を理解し自らの目標もたて実践の経過として書面等で報告し、個々のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	GH協議会やブロック会議等を通じ、他施設への見学会や様々な研修に参加する事で情報の共有、サービスの質向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込みを頂いた時点で、本人様、その御家族様に対し入居する上で少しでも不安に思ふ事や悩みを解消して頂けるよう面談時などの話し合いに力を注いでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり面談を行う際は、入居に至る経緯やその背景に十分気を配り、出来る限りご家族の要望に添えるよう環境作りや信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には初期プランを作成、実践する事で本人様が何を求めているか何を必要としているかを十分に理解した上でケアマネージャーを中心にスタッフで共有しながらケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様が一緒に家事作業を行う等、ご本人の意思も尊重しつつ、協力し合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様も入居者様同様の目線に立ち支援する事に努め、職員、御家族様、本人様の関係を共有出来るよう介護計画を中心に築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際に最も重要視している事である。環境変化に対する不安、疎遠を少しでも軽減できる様、かかりつけ医の継続等の関係を途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員との関わりはもちろん、入居者様同士の関わりに重視している。ある入居者様は馴染みの方が出来た事で生活に活気が出ている。職員は話題を提供する事で入居者同士孤立がないよう日々支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了が決まる前後に本人様に必要な支援(他サービスの利用)等を考え本人、御家族様に適当なフォローを提供している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、ご本人様やご家族様の思いを受け止めケアプランに反映させ、又日々変動する思いや希望をアセスメント、ケアカンファレンス等により検討する事で常に本人本位のケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族様から聞き取りを行い作成したフェイスシートを常に参考にしながらご本人にとって暮らしやすい環境が継続できる様に職員全体で努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの日々の暮らしや体調、精神状態の変化等現状の把握をする事によりその人がその人らしく自由に生活出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様、主治医、看護師の意見を聞き、ケアカンファレンスを行い、ケアマネジャーが介護計画を作成し定期的にモニタリングを実施する事でより現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った事柄や日々の様子、ケアの内容等わかりやすく介護記録に記載する事で職員間で情報を共有しながら日々のケアに活かしていきながらケアプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市内に同一法人の施設があり入居者様の状況や新しいニーズに多方面に渡り対応出来る。柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の状況に応じて福祉事務所、包括支援センター等の行政機関と連携を取り必要な支援をしている。又、定期的に運営推進会議を開催し町会や消防、地域包括支援センターと協働している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を楽しみながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望のかかりつけ医と常に連携を取り定期的往診の介助や受診が必要と判断した場合にはご家族への報告をすると共に依頼のあった場合には受診介助を行っており日々適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に設置している「函館ファミリークリニック」より24時間体制で医療的な指示や助言を仰ぐ事が出来る。又、毎週火曜日に訪問され健康管理指導が実施され入居者様の健康状態の管理、把握が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を主とし入退院に関しては相談員と連絡を密に取り、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時にも説明しており又、重度化に至る前にご家族様、主治医、看護師との相談を行い医療的な治療の必要性や看取り指針での対応など早期に対応出来るよう努めている。また、協力介護医療院への移動も選択肢として話をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応、応急処置などに関する講習を受講している職員もおり、それを活かした勉強会も行われ職員全体が把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回(半年に1回)実施しており日中・夜間想定にて行っている。又、近隣の町会の参加もあり地域密着にて訓練に取り組んでいる。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声掛け(言葉遣い)には日々特に気をつけており、敬う気持ちを大切にしている。又、書面(記録等)でもプライバシーに配慮した記載を常に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望など意思を表出できる方については職員誰に対しても気兼ねなく話せる日々働きかけている。意思を伝えられない方については表情など様子で汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	理念にもあるように自由な姿でいて頂く為に、個々のペースに合わせ共同生活に支障がない程度で希望に合った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感に合った容姿をして頂く為に、一人ひとり配慮している。又、自己決定も大事にして頂く為に買い物時等個々の好みの物を購入して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と入居者様が一緒に行い、会話をしながら楽しい雰囲気を中心けている。また、片付けは職員と入居者様が一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業者に委託して管理栄養士が作成している。水分量は健康管理表を下に職員が把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがいを行う事で口腔内の洗浄、風邪予防も兼ね毎日行っている。又、毎食後は義歯の方も含め歯磨き行っており清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	羞恥心に配慮した上で気持ちの良い排泄をして頂く為に、常に排尿パターンを意識した声掛け、誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便リズムを把握した上で食事、水分量に配慮し便秘を起こさせない取り組みを行っている。又、便秘がちの方に関してはかかりつけ病院より下剤等処方して頂き排便コントロールを行っている。出来る限り薬に頼らないよう、毎日ラジオ体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	曜日や時間を決めた入浴は行っておらず、一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床の時間は決めておらず個々の睡眠リズムに合わせてそれぞれ促している。又、昼夜逆転を防止する為にも昼寝など取り入れ、適時で起きて頂く事で睡眠のバランスを取っている入居者様もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時や往診時の主治医からの指示、お薬情報等から服薬方法の把握に努めている。又、状況により医師、看護師へ指示を仰ぎ対応を相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や得意分野を活かし残存能力を損ねないよう家事作業の中で活かして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、天候を考慮した上で散歩やドライブ、買い物等外出行っている。受診との兼ね合いもあるが、出来る限り希望に添えるよう支援している。ご家族が散歩や外出する機会も見られる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については全て職員で行っている。入居者様のお金所持に関しては認知症が強い方が多く紛失等を防ぐ為にもご本人様に所持して頂くことはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話でご家族との電話のやり取りを日常的に行われている方もいる。又、年末年始は年賀状の送付も行っている。1階には公衆電話も設置しておりいつでも外部の方との連絡を取る事が出来るようになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には植木や花といった植物を置くことで生活感や季節感を味わって頂く。又、ホールには大きなソファを設置する事で誰でも気兼ねなくくつろげる空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、食堂と好きな場所でお話されたりお茶を飲んだり一人ひとりが好きな場所で過ごせるようソファを配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みを物(写真や家具等)をいくつか置くことで居心地良く慣れ親しむ事が出来る居室を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な空間作りに努めており、室内には全て手摺が設置されており事故等防止に努め、自立した生活が送れるよう支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム よろこびの家 日吉

作成日: 平成 31年 2月 18日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	35	年2回の防災訓練を実施しているが自主的な訓練が不足している。	年2回にとらわれず毎月災害などの避難誘導訓練、通報訓練の確認を職員全体で行っていききたい。	平成30年度に地震による停電があり、改めて避難対応の重要性を認識した。訓練を強化し職員全体で防災害に備えていききたい。	1年
2	49	定期的に外出はしているものの満足はいく頻度ではない。又、外出される方に偏りも見られている。	人員の増加を目標とし個別ケアとして入居者様の希望に添える外出に力を入れていききたい。	全入居者様が偏りなく希望通り外出できるよう業務の改善、人員の増加等経営者と相談し検討したい。	1年
3	14	協議会開催の研修やブロックでの研修会等多々あり以前に比べ出席率は増えたものの満足はいく結果ではない。	内部外部の研修の情報をさらに取り入れ研修への出席率のさらなる増加、スキルアップ、自施設へ反映、勉強会を開催していききたい。	管理者自らが率先して研修に参加し、職員への研修参加を促していく。又、外部研修での内容を当施設の勉強会や研修の役立てていききたい。	2年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。